

## 第3章 中城湾の現況（海洋状況）把握

海洋体験の対象である中城湾について、海洋環境（魚種、生物など）や景観資源などの鑑賞資源について、既往資料、関係者へのヒアリング等から整理を行った。また、これら既往研究の整理やヒアリング結果を踏まえて、グラスボートを用いた現地調査を実施した。

### 3.1 文献等による海洋環境の把握・整理

参考とした既往資料およびヒアリング対象者を下表に示す。

表-3.1.1 参考とした既往研究およびヒアリング先

既往資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中城湾港泡瀬地区 生物ハンドブックー海辺のいきものたちー（2006年／内閣府 総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 中城湾港出張所）</li> <li>・中城湾港港湾環境保全計画（2007年／沖縄県土木建築部港湾課・環境部環境政策課）</li> <li>・潮流表 中城湾港（国土交通省気象庁）</li> <li>・その他民間誌 など</li> </ul>
ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐敷中城漁業協同組合</li> <li>・ダイビング事業者 など</li> </ul>

また、文献等による海洋環境の資料整理の結果は、「観光スポット候補位置図」と下記のとおりである。

#### 3.1.1 サンゴ礁・熱帯魚を鑑賞できるエリアについて

サンゴ礁、熱帯魚等の鑑賞できる可能性の高いスポットは、熱田漁港から 5km から 10km に位置する①、②（観光スポット候補位置図中）、津堅島の南に位置するリーフ（礁）内の③がある。

①、②、③では、サンゴ礁に棲みつくクマノミ、チョウチョウウオ、スズメダイ等が確認できる可能性がある。なお、サンゴ礁エリア②については、白化が進んでいる可能性がある。

中城湾は、西側に比べると湾のため、潮の入れ替えが乏しい環境であるため、西側の海洋環境より透明度が低く、水温も高くなる傾向があり、白化が進みやすいため観賞可能か確認が必要である。

図中⑤は、かつてサンゴのあった④のサンゴを移植しているが、順調に生息しているか不明である。

中城村のリーフ沿いのエリア（図中⑥）は、かつて潜り漁を行っていた地域である。サンゴが確認されたことはないが、地形的には生息している可能性がある。なお、4月から10月は波が高くなるため、運航は困難になることが想定される。

図中⑦から⑨は深いが漁礁が設置されており、ダイビングスポットととしても利用されている。深いため、グラスボートからの観察することは難しい可能性が高い。

### 3.1.2 アーサ・モズクの養殖エリアについて

アーサの養殖を行なっているエリアは⑫、モズクの養殖を行なっているエリアは⑬である。

アーサの収穫時期は、1月から4月、モズクの収穫時期は、4月から6月である。収穫時期のはじめであれば、収穫する光景を眺めることができる。なお、本格的な収穫時期は、収穫作業を阻害してしまう怖れがある。

### 3.1.3 その他

東海岸側は10月から4月の冬季・春季は凪になるため、安定した運航が可能となる。一方で、5月から9月の夏期は、東側は波が高くなるため、運航に注意が必要である。

安定した運航が可能な10月から4月に修学旅行客をターゲットとしたメニューの構築等が考えられる。

表-3.1.2 中城湾の海洋環境についての詳細

番号	エリア名	スポットの特性	鑑賞内容
1	熱帯魚エリア	・浅く熱帯魚が確認できる	・クマノミ、チョウチ ヨウウオ
2	サンゴ・熱帯魚エリア	・サンゴ礁と熱帯魚が確認できる ・サンゴ礁については近年白化 が進んでいる可能性	・ブダイ、スズメ ダイ ・サンゴ礁 (要確認)
3	ダイビングエリア	・サンゴ礁があり、スズメダイ などが観察できる ・初心者向けのため浅く波が穏 やか	・サンゴ礁 ・スズメダイ
4	元サンゴ礁エリア	・港湾工事が始まるまでサンゴ 礁が確認できた ・現在も僅かに残っている可能性	・サンゴ礁 (要確認)
5	サンゴ礁移植エリア	・④からのサンゴの移植地	・サンゴ礁 (要確認)
6	潜り漁エリア	・かつて潜り漁をやっていた地域 ・タコやイカが採れた ・4月～10月はリーフ近くの波 が高い ・地形的にはサンゴ礁がある可 能性	・サンゴ礁 (要確認)
7	漁礁ダイビングスポッ ト	・漁礁が設置してありダイビン グスポットとなっている ・水深が深いため上級者向け	・漁礁に集まる魚 類
8			
9			
10	アウトリーフ (サンゴ) エリア	・アウトリーフにサンゴ礁がある	・サンゴ礁 ・熱帯魚等
11	サンゴ礁エリア	・まばらにサンゴ礁が確認できる	・サンゴ礁
12	アーサー養殖エリア	・アーサーの養殖場 (1月～4月)	・アーサーの養殖
13	モズク養殖エリア	・モズクの養殖場 (4月～6月)	・モズクの養殖

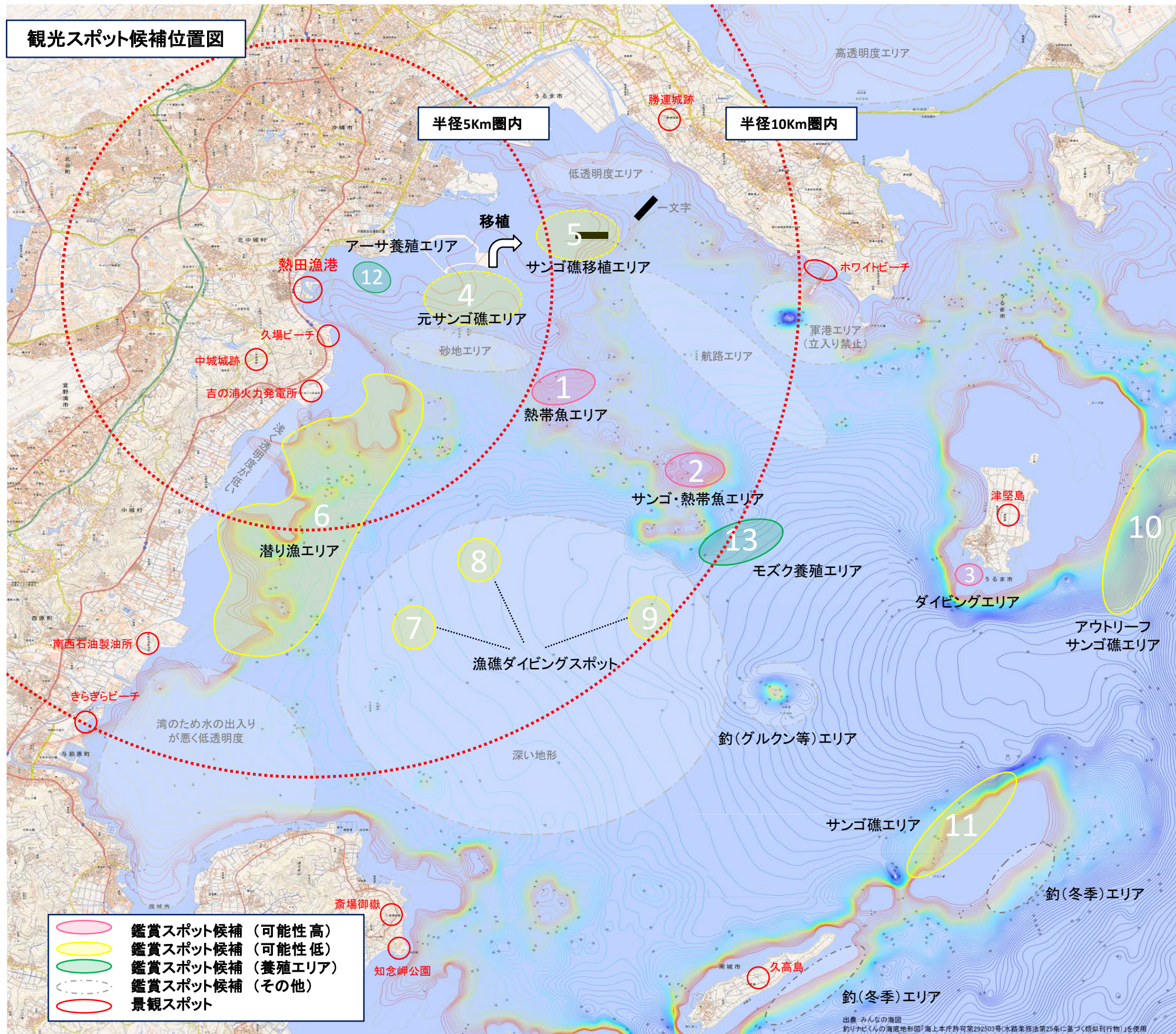


図-3.1.1 観光スポット候補位置図

### 3.2 文献等による景観スポットの把握・整理

中城湾からの景観資源について、既往資料、関係者へのヒアリング等から整理を行った。結果を下記および次頁以降に示す。

#### ◆景観スポット概要

- ・「観光スポット候補地位置図」の①、②に向かう航路では、中城城趾、勝連城趾の2つの史跡を遠望することができる。
- ・産業観光の可能性として、西原の工場地帯、吉の浦火力発電所が観察できる。
- ・夜間は、与那原町が最も明るい地域である。
- ・久高島や津堅島など離島の景観も確認することができる。
- ・その他、景観スポットの候補として、ホワイトビーチ、久場ビーチ、きらきらビーチ、斎場御嶽、知念岬等があげられる。



<p>1 勝連城跡</p>  <p>出典:うるま市観光物産協会HP</p>	<p>勝連城跡の歴史勝連城は、琉球王国が安定していく過程で、国王に最期まで抵抗した有力按司(あじ)阿麻和利が住んでいた城として有名である。勝連城跡の標高は約60m～98m。総面積は11,897㎡。城壁は、自然の地形を巧みに利用しながら、石灰岩の石垣をめぐらせている。北西の最高部から一の曲輪、二の曲輪、三の曲輪、四の曲輪と各平場が階段状に低くなり、再び南東側の東の曲輪で高くなっている。城が立地しているこの場所一帯は、長い間人々が活用してきた土地である。城跡の崖下からは、貝塚が発見され、先史時代後期末から古代人の生活地として利用され、13世紀前後より城塞としての体裁を整えたと考えられている。</p>
<p>2 中城城跡</p>  <p>出典:中城城跡共同管理協議会HP</p>	<p>中城城跡は世界遺産(琉球王国のグスク及び関連遺産群)/国指定史跡/日本100名城に指定。北中城村と中城村にまたがり東北から南西にはほぼ一直線に伸びた標高150m～170mの石灰岩丘陵上の縁辺部に立地する山城である。南東側は15m以上の切り立った断崖、北西側は勾配のきつい傾斜面となっているため城内に至るには正門や裏門に面している南北の丘陵尾根に沿って築かれており、守りやすく攻めにくい地に築かれている。城は6つの郭からなり、城壁は琉球石灰岩で積み、自然の岩石と地形的条件を巧みに生かしながら美しい曲線で構成されている。</p>
<p>3 久高島</p>  <p>出典:南城市HP</p>	<p>久高島は、知念半島の東約5kmに位置し、周囲7.75kmの小さな島である。琉球開びやくの祖アマミキヨが天から降りて最初につくったとされている島で、五穀発祥の地、神の島と呼ばれている。また、歴代の琉球国王は久高島参詣を欠かすことはなかったといわれている。久高島には、12年に1度、午年に行なわれる祭事・イザイホーに代表されるように神秘的な祭事がそのまま残っているため、民俗的に貴重な島として注目されている。</p>
<p>4 知念岬公園</p>  <p>出典:南城市HP</p>	<p>沖縄県本島の南部、南城市の最も東にある観光スポットで、初日の出のスポットにもなっている。公園という名称であるが、特に遊具があるわけではなく、高台から海のほうに岬が続き、東屋が2つ、モニュメントが1つ設置されている。</p>

<p>9 きらきらビーチ</p>  <p>出典: 西原マリンパークHP</p>	<p>西原町から与那原にまたがる西原マリンパーク内にある公共のビーチで、夏には地元住民等が多く来場している。中城湾港マリンプロジェクトの計画地が隣接しており、将来大型MICEが供用される予定である。</p>
<p>10 ホワイトビーチ</p>  <p>出典: 沖縄県HP</p>	<p>勝連半島の先端部に位置しており、白砂が美しい海岸に2つの堤が突き出ている。その先端にそれぞれ栈橋が設けられており、それぞれは、アメリカ海軍栈橋とアメリカ陸軍栈橋と呼ばれている。アメリカ軍向けの補給物資の揚陸全般(危険物は天願栈橋から揚陸)、アメリカ海軍艦船への補給、寄港する第7艦隊艦船や原子力潜水艦、国連軍加盟諸国艦船などの受け入れを行っている。</p>
<p>11 津堅島</p>  <p>出典: 沖縄離島ドットコムHP</p>	<p>浸食作用により、与那国島の立神岩のような感じで天に向かって真っ直ぐ伸びている不思議な岩であるが、砂浜から望むことができない。</p>





### 3.3 現地調査による検証

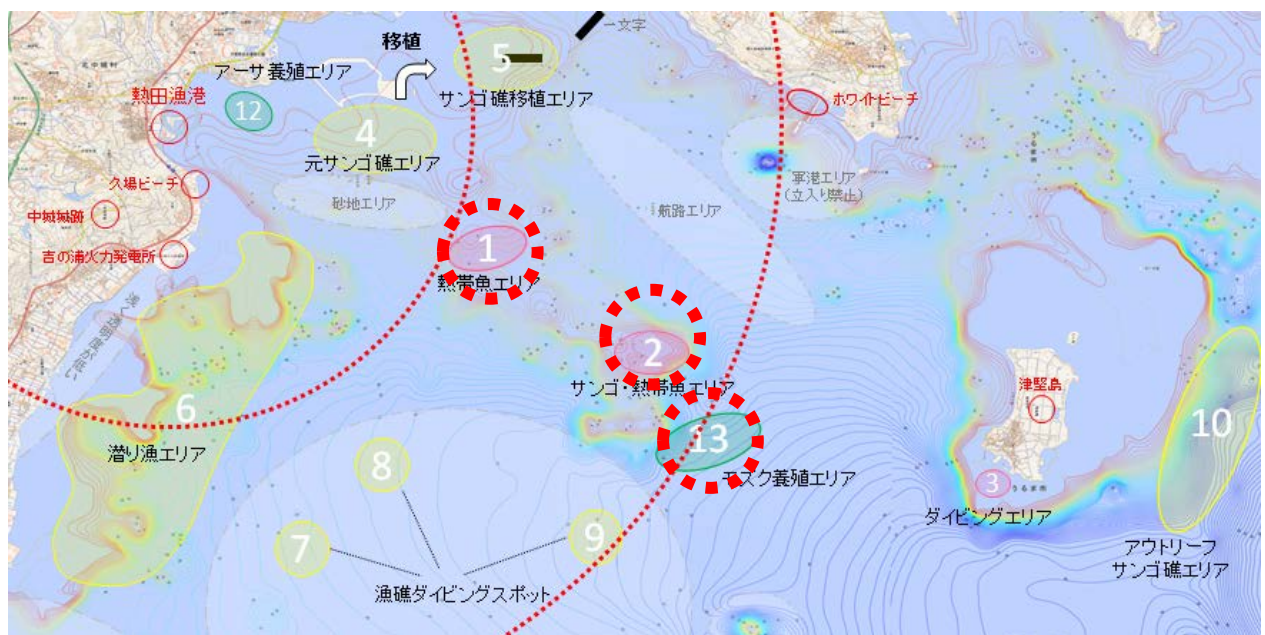
#### 3.3.1 現地調査概要

既往資料および関係者へのヒアリング結果を踏まえサンゴ、魚類が生息していると想定される箇所を対象として、グラスボートによる実見調査を実施した。

日時	平成 30 年 1 月 15 日 (月) 13 : 30 ~ 16 : 00
場所	・ 具体については、浅瀬のサンゴ、魚類が生息していると想定される箇所を確認 ・ 下図の①、②、⑬周辺を調査
参加者	北中城村 (比嘉副村長、棚原係長、安本氏) 委員会メンバー (伊佐氏、宮城氏) 受託事業者 (オリエンタルコンサルタンツ 2 名)
使用船舶	12 人乗りグラスボート (知念海洋レジャーセンター)
天候・海洋条件	曇り、大潮、漲潮 (干潮から満潮)

※その他、船員 2 名 (知念海洋レジャーセンター) が乗船

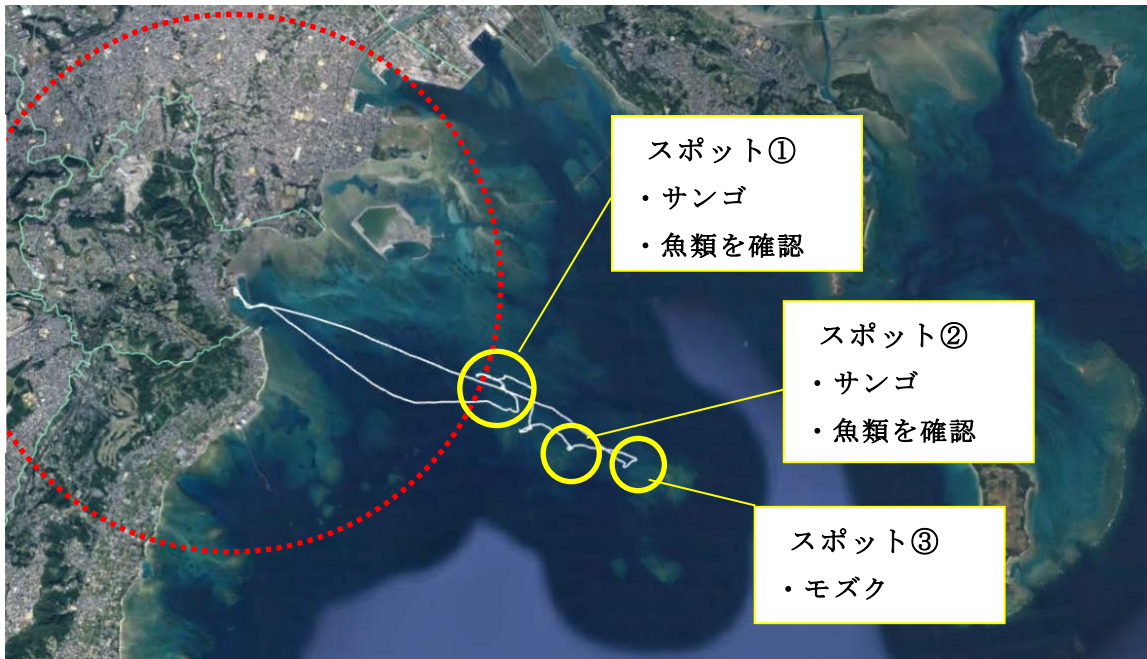
※宮城氏 (漁業組合) は漁船に乗船し誘導



< 調査箇所 >

<参考>

[調査ルート]



### 3.3.2 当日の調査の様子



<乗船前の様子①>



<乗船前の様子②>



<船内の様子①>



<船内の様子②>



<景観>



<中城城跡>

### 3.3.3 実見結果概要

実見により確認できた魚、サンゴ等の状況について、以下に示す。

#### 1) 確認できた魚等

- ・現状では、グラスボートに慣れていないためすぐに逃げてしまうが、以下の魚を確認することができた。



<ロクセンズメダイ (イメージ) >



<ルリスズメダイ (イメージ) >



<クロスズメダイ (イメージ) >

- ・知念海洋レジャーセンターでは毎日餌付けを実施しており、一週間実施しないとほとんど魚が見ることができない。恒常的に観賞できるようにするためには、餌付けの実施が必要。

#### 2) サンゴについて

- ・ミドリイシ等のような骨格を形成するタイプの造礁性サンゴ（ハードコーラル）がほとんどであった。  
⇒ ソフトコーラルは生息していない様子
- ・テーブル状のサンゴも確認することができた。
- ・白化現象が進んでいる箇所も確認することができた。

#### 3) モズク養殖について

- ・モズク養殖の網は確認できたが、3月の収穫まで時間があるため、繁茂は少ない状況であった。
- ・モズクやアーサーの収穫見学は、漁師との調整が必要

### 3.3.4 実見したスポットの詳細

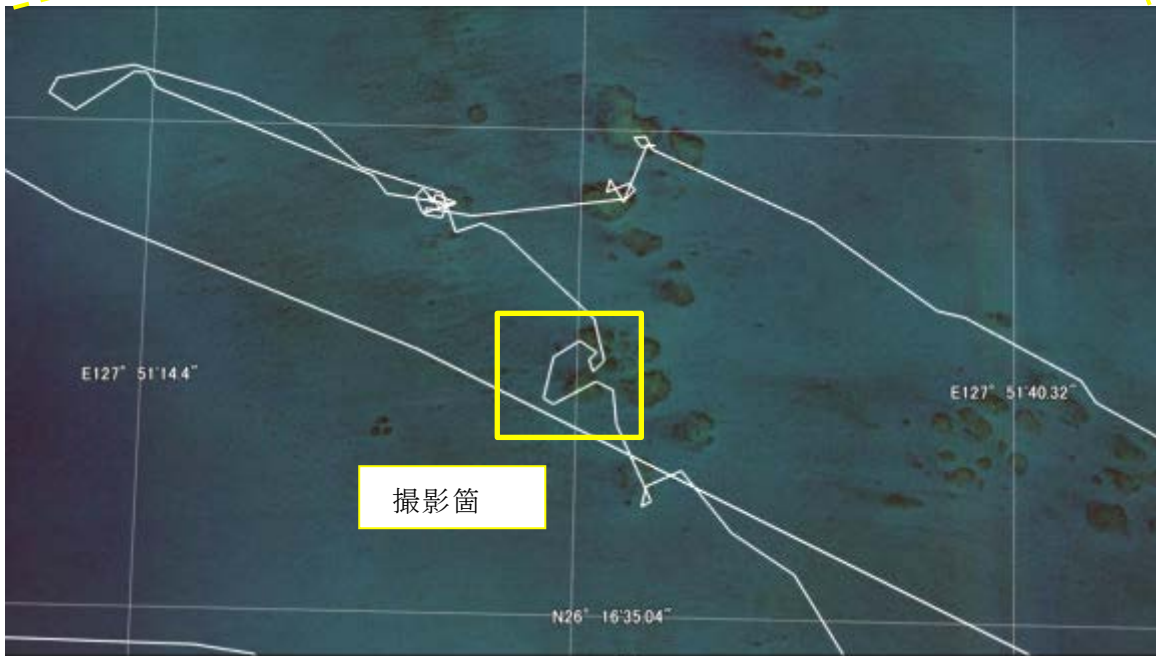
実見したスポットの経路や詳細について、下記に示す。

#### 1) スポット① (サンゴ、魚類エリア)

<全体経路図>

<確認内容>

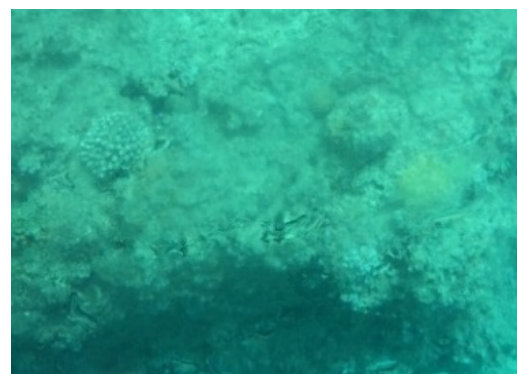
- ・ロクセンスズメダイ／ルリスズメダイ  
／クロスズメダイを確認
- ・造礁性サンゴ (ハードコーラル) を確認



<スポット①拡大図>



<海中の様子①>



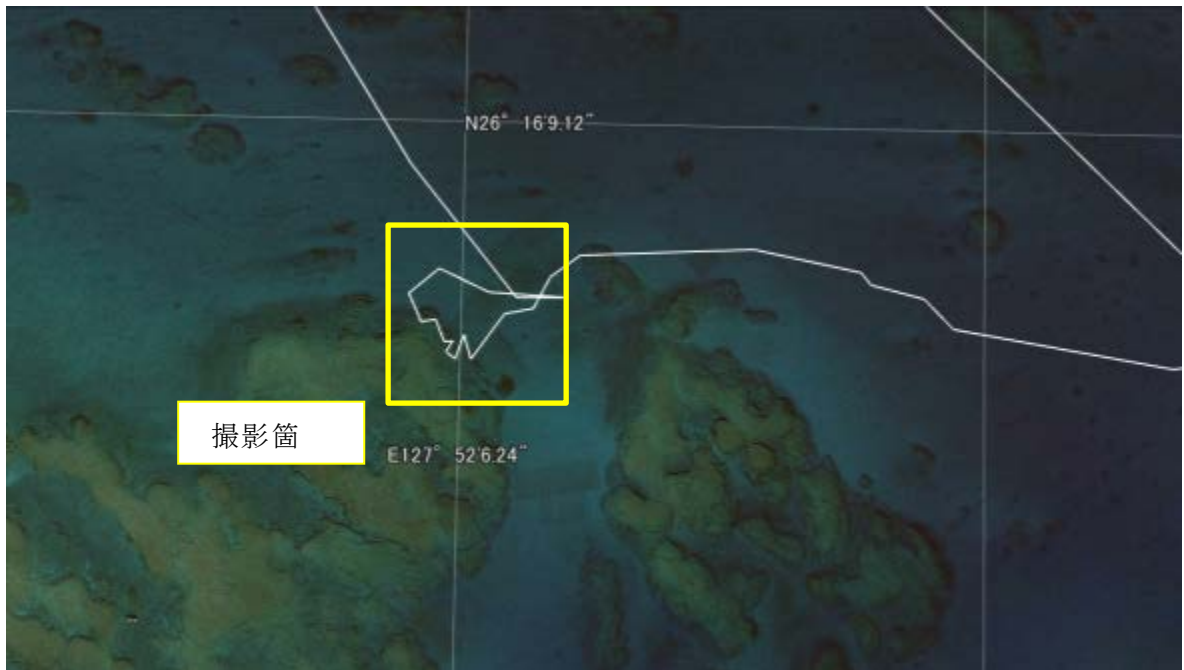
<海中の様子②>

2) スポット② (サンゴ、魚類エリア) >

<全体経路図>

<確認内容>

- ・ロクセンスズメダイ／ルリスズメダイ  
／クロスズメダイを確認



<スポット②拡大図>



<海中の様子①>



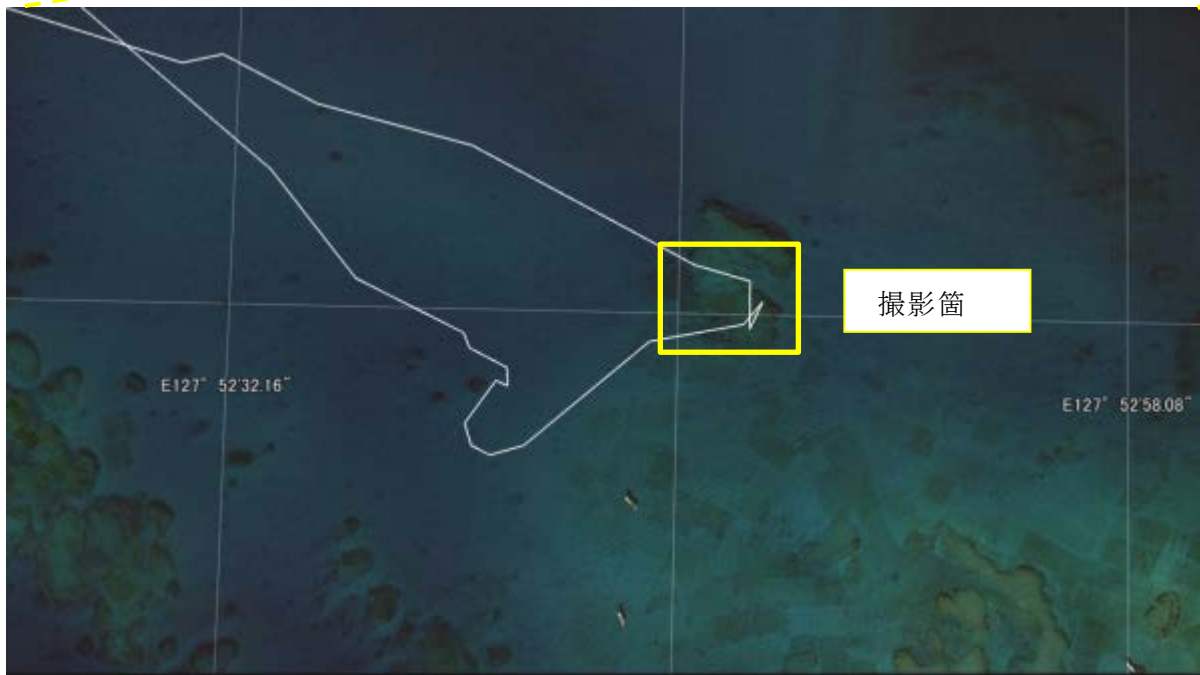
<海中の様子②>

### 3) スポット③ (モズクエリア)

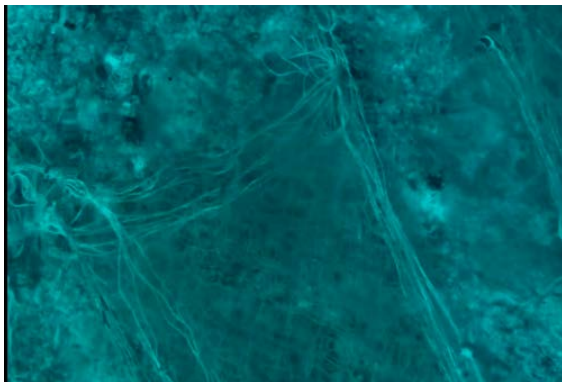
### <全体経路図>

#### <確認内容>

- ・モズク養殖の網は確認できたが、3月の収穫まで時間があるため、繁茂は少ない状況であった。
- ・モズクやアーサーの収穫見学は、漁師との調整が必要



<スポット③拡大図>



<海中の様子①>



<海中の様子②>